

# 11・82の積雪、「世界一」

11・82は、これは伊吹山測候所が1927年2月14日に観測した積雪の最深記録である。ギネスブックには登録されていないが、世界山岳気象観測史上1位とされている。

と、この年の冬、山頂はみ、2位は1923年に残る1981年の「5610以上の積雪が2カ月の9・91は、3位は19豪雪の時は8・20の間も続いたという。ちな45年の8・50。記憶った。

冬型の気圧配置が強まり、雪雲を運ぶ上空約1500の風が西へ北西から吹いた時に伊吹山は大雪に見舞われる。若狭湾から伊勢湾に筋状の雪雲が吹き抜ける際に、直接伊吹山に当たるから

秋には、平均風速ではうかがい知れない強い風が吹くこともある。1961年9月16日、第2室戸台風が通過した時には、最大瞬間風速56・7を観測したという記録も残っている。

## 気象記録

## 山頂で吹く風、季節に特徴

彦根地方気象台がまとめた「伊吹山の気象」や伊吹町史・自然編による

だ。ただ、伊吹山頂とふもとの彦根の気温差は、夏が平均13〜14度に対して、冬は約7度しかない。

山頂で吹く風にも季節ごとの特徴がある。風向きは、10月〜翌年4月が北北西から北西、5〜9月は南東の風が吹くことが多い。月別の平均風速を見ると、2月が毎秒10〜11で最も強く、7月は7〜8で最も弱い。

しかし、梅雨前線の影響を受ける6月や、低気圧が日本海を通過する春や

伊吹山は霧のかかる日が多いことも知られている。1年間の霧の日数は平均297日。特に7月の霧日数は28・1日で、毎日のように霧がかかる。低い雲の底部が山頂付近にかかることが多いうえに、7月後半には、晴天時でも谷風の影響で雲が生じやすいという。



霧の中を下山する登山者（中央左側）。伊吹山は年間を通じて霧の日が多い。伊吹山で

伊吹山の山頂に広がるお花畑はこの霧で育てられたといわれている。鹿兒島県・屋久島の森が多くの雨によって育まれていのに似ているのかもしれない。夏が来れば、お花畑はその鮮やかさで人々を魅了する。

# 伊吹山 点描